

生涯学習概論		後期 1 単位	2年
一生を豊かにする学習と図書館			
ねらい	図書館サービスを規定する基本的概念である生涯学習を学んでいただきます。なお、本科目は司書資格取得のために必要な科目であり、司書として必要な最低限の知識・技能が獲得できていない場合には不合格とするので注意してください		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 生涯学習の意義と理念(学習権) 第3回 生涯学習の意義と理念(ユネスコ学習権宣言) 第4回 生涯学習の意義と理念(図書館と生涯学習) 第5回 わが国での生涯学習の展開(戦前の成人教育) 第6回 わが国での生涯学習の展開(生涯教育の展開) 第7回 わが国での生涯学習の展開(生涯学習の成立と展開) 第8回 生涯学習関連施策と社会教育施設(公民館) 第9回 生涯学習関連施策と社会教育施設(美術館) 第10回 生涯学習関連施策と社会教育施設(その他) 第11回 ライフステージと生涯学習支援(乳児～青年) 第12回 ライフステージと生涯学習支援(成人以降) 第13回 生涯学習の課題(施策) 第14回 生涯学習の課題(発達段階) 第15回 試験		
進め方	講義を中心に行います。		
テキスト	新海英行・竹市良成『生涯学習概説(図書館情報学の基礎13)』勉誠出版。なお配布プリントのファイルはactive campusの時間割に掲載します	参考文献	授業ごとに提示します。
評価方法	出席:30% 試験:70%		

図書館概論		前期 2 単位	1年
図書館を理解する			
ねらい	図書館は数千年の歴史を持ち、“知”と密接に関連しています。その機能はさまざまであり、貸出はその一部にすぎません。この科目では、図書館という存在と意義の理解を目的としています。なお、本科目は司書資格取得のために必要な科目であり、司書として必要な最低限の知識・技能が獲得できていない場合には不合格とするので注意してください		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 現代の社会における図書館の定義・意義 第3回 図書館を支える理念 第4回 社会的制度としての図書館 第5回 地域と図書館 第6回 さまざまな図書館：公立(公共)図書館 第7回 さまざまな図書館：学校図書館 第8回 さまざまな図書館：大学図書館 第9回 さまざまな図書館：専門図書館 第10回 さまざまな図書館：国立図書館 第11回 海外の図書館 第12回 図書館の歴史：公立図書館の成立 第13回 図書館の歴史：日本の図書館 第14回 図書館関係団体 第15回 テスト		
進め方	講義形式で進めていきます。司書課程の基礎科目という位置づけにあたりますので、多少の基礎概念等をしっかり理解してもらいます。		
テキスト	図書館概論(塩見昇編著 日本図書館協会)	参考文献	必要に応じて紹介します
評価方法	出席:30% テスト(持込不可):70%		

図書館経営論		後期 1 単位	2年
図書館のヒト・モノ・カネ			
ねらい	図書館が現在直面している課題に管理・運営面から取り組むことで、図書館理解をより深める。なお、本科目は司書資格取得のために必要な科目であり、司書として必要な最低限の知識・技能が獲得できていない場合には不合格とするので注意すること。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 図書館と経営 第3回 図書館評価の基礎 第4回 図書館評価(業務統計) 第5回 図書館経営を取り巻く環境 第6回 図書館における経営資源(人材) 第7回 図書館における経営資源(組織) 第8回 図書館における経営資源(設備) 第9回 図書館における経営資源(蔵書) 第10回 図書館における経営資源(予算) 第11回 図書館のマーケティング 第12回 マーケティングの基本要素 第13回 図書館へのマーケティングの適用 第14回 図書館評価の演習 第15回 まとめ		
進め方	前半は図書館評価について実際の図書館の業務統計を使用して、身近な図書館の客観的な評価方法について説明します。中盤は図書館経営の資源について説明を行ないます。後半は図書館経営の計画の立て方について考えていきます。		
テキスト	プリントを配布します。配布資料のファイルは校内ネットワーク上で利用できるようにしておきます。	参考文献	授業時に必要に応じて紹介します
評価方法	出席:15% 期末レポート:85%		

図書館サービス論		前期 2 単位	1年
図書館の活動を知る			
ねらい	現在図書館でどのようなサービスが行なわれているのかを解説し、現代の図書館サービスが多岐にわたるものであり、かつ専門的であることを学んでいただきます。なお、本科目は司書資格取得のために必要な科目であり、司書として必要な最低限の知識・技能が獲得できていない場合には不合格とするので注意してください		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 図書館サービスの意義・理念(1) 第3回 図書館サービスの意義・理念(2) 第4回 図書館サービスとマネージメント 第5回 来館者へのサービス 第6回 利用空間の整備 第7回 貸出サービスの構造 第8回 資料提供の展開 第9回 図書館サービスと著作権 第10回 情報提供 第11回 利用対象に応じたサービス(1) 第12回 利用対象に応じたサービス(2) 第13回 多様な利用者サービス 第14回 利用者との交流 第15回 定期試験		
進め方	講義を中心とします。なお配布プリントのファイルは校内ネットワークで利用できるようにしておく予定です。		
テキスト	図書館サービス論(小田光宏 日本図書館協会)	参考文献	講義時に必要に応じて紹介します
評価方法	出席:15% 定期試験:85%		

情報サービス概説		前期集中 2 単位	1年
図書館による情報サービスを理解する			
ねらい	図書館サービスのうち、情報サービスと呼ばれるモノについては、特にこの科目で学ぶこととなります。利用者に情報をどう提供するかの基盤を理解していただきます。なお、本科目は司書資格取得のために必要な科目であり、司書として必要な最低限の知識・技能が獲得できていない場合には不合格とするので注意してください		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 情報サービスとは何か 第3回 情報サービスの種類(1) 第4回 情報サービスの種類(2) 第5回 情報源の種類と評価(1) 第6回 情報源の種類と評価(2)、情報ニーズ(1) 第7回 情報ニーズ(2)、情報ニーズへの対応(1) 第8回 情報ニーズへの対応(2) 第9回 情報の検索と回答(1) 第10回 情報の検索と回答(2) 第11回 情報サービスの管理 第12回 事実検索の情報源(1) 第13回 事実検索の情報源(2) 第14回 文献検索の情報源(1) 第15回 電子メディアの活用		
進め方	講義を中心に行います。		
テキスト	情報サービス概説(小田光宏編著 日本図書館協会) 必要に応じて追加のプリントを配布いたします。	参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	出席:15% テスト(持込不可):85%		

レファレンスサービス演習		後期 1 単位	1年
情報提供のノウハウ			
ねらい	図書館に寄せられてくる多様な利用者の質問の意図を把握し、的確な情報提供が可能となる技能の修得を目指します。なお、本科目は司書資格取得のために必要な科目であり、司書として必要な最低限の知識・技能が獲得できていない場合には不合格とするので注意してください		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 OPACの探索について(課題提示) 第3回 レポートの書き方について 第4回 辞書・辞典・便覧の探索について(課題提示) 第5回 OPACの探索について(講評) 第6回 辞書・辞典・便覧の探索について(講評) 第7回 人名・会社録の探索について(課題提示) 第8回 図書館のトピック(講義) 第9回 人名・会社録の探索について(講評) 第10回 書誌・索引類の探索について(課題提示) 第11回 インターネット上の資源について(課題提示) 第12回 図書館のトピック(講義) 第13回 書誌・索引類の探索について(講評) 第14回 図書館のトピック(講義) 第15回 インターネット上の資源について(講評)		
進め方	それぞれの内容ごとに講義(課題提示)→演習→レポート提出→回答発表/講評という形で進めていきます。また課題提示からレポート提出までの間には図書館に関係するトピックについて講義形式で紹介いたします。読書週間がこの時期に該当するので、例年はそのことを取り上げています。		
テキスト	なし。なお配布資料のファイルは校内ネットワーク上で利用できるようにしておく予定です。	参考文献	授業時に必要に応じて紹介する
評価方法	出席:5% レポート:90% 授業時の発表:5%		

情報検索演習	後期 1 単位	2年
データベースの仕組み	加藤 久枝 (かとう ひさえ) 宮田 雅智 (みやた まさのり)	
【ねらい】 コンピュータを利用した情報検索システムの仕組みを利用・提供の両面から学んでいただきます。なお、本科目は司書資格取得のために必要な科目であり、司書として必要な最低限の知識・技能が獲得できていない場合には不合格とするので注意してください。		
【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回 情報のデジタル化 第3回 情報検索の定義と論理演算 第4回 検索式の作成 第5回 データベースの作成(1) 第6回 データベースの作成(2) 第7回 データベースの作成(3) 第8回 データベースの作成(4) 第9回 データベースの操作 第10回 ND-OPAC(1) 第11回 ND-OPAC(2) 第12回 ND-OPAC(3) 第13回 ND-OPAC(4) 第14回 いろいろな検索機能 第15回 まとめ		
【進め方】 情報のデジタル化、データベース化などいくつかの必要な基本的知識について解説した後、コンピュータを使用した実習を行う。実習では、各自の書籍データベースを作成し、検索の実際を体験した後、オンライン・データベース(雑誌記事・論文、図書を対象)を利用して演習を行う		
【テキスト】 【参考文献】 なし。必要に応じて資料を配布する		
【評価方法】 レポート30%、課題提出物30%、出席・授業時態度40%		

図書館資料論	前期集中 2 単位	1年
資料を知る		
ねらい	商人にとって商品に関する知識が必要であるように、図書館に携わる人にとって資料に対する理解は必要不可欠です。この授業では、資料のあり方、その扱い方について学んでいきます。なお、本科目は司書資格取得のために必要な科目であり、司書として必要な最低限の知識・技能が獲得できていない場合には不合格とするので注意してください	
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 資料とは何かー図書館資料について 第3回 紙について、本について(1) 第4回 本について(2)、印刷資料(1) 第5回 印刷資料(2)、印刷資料以外の資料(1) 第6回 印刷資料以外の資料(2) 第7回 特別な位置づけの資料 第8回 出版流通について 第9回 蔵書とは何か(1) 第10回 蔵書とは何か(2) 第11回 資料の収集と選択(1) 第12回 資料の収集と選択(2) 第13回 資料の受入 第14回 書庫管理 第15回 テスト	
進め方	講義を中心とします。	
テキスト	図書館資料論 新訂版(馬場俊明編著 日本図書館協会) 必要に応じてプリントを配布します	参考文献 必要に応じて紹介します
評価方法	出席:15% テスト(持込不可):85%	

専門資料論		前期 1 単位	2年
人文科学、社会科学、自然科学・技術各分野の知識構造・特性とそれぞれの分野の資料について		加藤 久枝（かとう ひさえ）	
ねらい	<p>学術情報の生産・流通・利用のサイクル、学術情報の主たる利用者である研究者コミュニティについて理解するとともに、人文科学、社会科学、自然科学・技術各分野の特徴とそれぞれの分野における知識資源としての専門資料の種類と特性について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>【前期】  第1回 専門資料とは何か  第2回 専門資料の構成と種類  第3回 学術コミュニケーションの構造  第4回 学術情報のアクセスと利用  第5回 電子環境下における学術情報  第6回 人文科学分野の情報・資料  第7回 社会科学分野の情報・資料  第8回 自然科学・技術分野の情報・資料</p>		
進め方	講義を中心に行う。		
テキスト	特に定めず、プリントを授業時に配布する。	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	出席:20% 課題:30% レポート:50%		

資料組織概説		後期 2 単位	1年
図書館資料の組織化についての理論を学ぶ		橋詰 秋子（はしづめ あきこ）	
ねらい	<p>図書館では、収集した資料に利用者が確実かつ効率的にアクセスできるよう、資料を分類順に排架したり、様々な項目から検索できる「目録」を用意したりしている。このような資料へアクセスするための手段を整えるプロセスを「資料組織」と呼ぶ。この授業では、資料組織についての理論的な知識を身につけることを目的とする。</p>		
授業計画	<p>【後期】  第1回 図書館と資料組織  第2回 資料組織の意義と目的  第3回 目録法①：目録と目録法の意義  第4回 目録法②：目録法と目録規則  第5回 目録法③：目録作業の実際1  第6回 目録法④：目録作業の実際2  第7回 主題組織法①：主題組織法の意義  第8回 主題組織法②：分類法  第9回 主題組織法③：分類作業の実際1  第10回 主題組織法④：分類作業の実際2  第11回 主題組織法⑤：自然語、件名法、シソーラス  第12回 コンピュータ技術と目録法①  第13回 コンピュータ技術と目録法②  第14回 書誌コントロール  第15回 目録のこれから</p>		
進め方	授業時に配布するプリントとテキストに沿って講義を行う。		
テキスト	田窪直規ほか著『三訂 資料組織概説（新・図書館学シリーズ9）』（樹村房）	参考文献	授業の中で必要に応じて紹介する。
評価方法	レポート:50% 平常点:50%		

資料組織演習		通年 2 単位	2年
資料を図書館で使えるようにするさまざまな技法		田中 岳文 (たなか たけふみ)	
ねらい	資料組織概説での理解を前提に、資料組織における具体的技法の考え方と実際を学びます。前期には主題分析の方法と日本十進分類法(NDC9)を用いた資料の分類方法を中心にとりあげます。後期には日本目録規則(NCR1987)にしたがった記入作成の方法、および書誌ユーティリティの実際を中心にとりあげます。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 イントロダクション：この授業および今学期の狙いなど 第2回 日本十進分類法(NDC)の構成の確認、主題の分析法 第3回 NDCの構造と使用方法：主題から 第4回 NDCの構造と使用方法：形式区分 第5回 NDCの構造と使用方法：地理区分、海洋区分 第6回 NDCの構造と使用方法：言語区分 第7回 NDCの構造と使用方法：言語共通区分 第8回 NDCの構造と使用方法：文学共通区分 第9回 小テスト 第10回 NDCの構造と使用方法：分類規程 第11回 実際の分類 第12回 所在記号の作成 第13回 基本件名標目表(BSH)の概要 第14回 分類作業総合演習 第15回 期末試験	<b>【後期】</b> 第1回 イントロダクション：前学期の講評と今学期の狙いなど 第2回 日本目録規則(NCR)の構成の確認、書誌情報の存在箇所 第3回 NCRの構成と使用方法：記述総則 第4回 NCRの構成と使用方法：タイトルおよび責任表示 第5回 NCRの構成と使用方法：版 第6回 NCRの構成と使用方法：出版・頒布等 第7回 NCRの構成と使用方法：形態 第8回 NCRの構成と使用方法：シリーズ、標準番号 第9回 小テスト 第10回 NCRの構成と使用方法：集合レベルと構成レベル 第11回 NCRの構成と使用方法：継続資料(逐次刊行物) 第12回 NCRの構成と使用方法：標目 第13回 MARC、書誌ユーティリティ 第14回 目録作業総合演習 第15回 期末試験	
進め方	各回のテーマに関しての説明のあと、それにそった演習を行います。評価は定期テストと小テストによります。前期と後期とでは演習内容が大きく異なるので注意してください。		
テキスト	吉田憲一編. 資料組織演習. 東京, 日本図書館協会, 2007, 270p. (ISBN978-4-8204-0624-2) (JLA図書館情報学テキストシリーズII, 10)	参考文献	志保田務, 高鷲忠美著. 資料組織法. 第6版. 東京, 第一法規, 2007, 316p. (ISBN978-4-474-02291-1)
評価方法	期末試験(2回):60% 小テスト(2回):40%		

児童サービス論		集中 1 単位	2年
本・子ども・図書館		菅沼 眞砂子 (すがぬま まさこ)	
ねらい	今日の子どもたちが置かれている状況を把握するとともに、子どもの本の現状を認識し、図書館児童室の司書はどのようにしたら子どもにとって価値ある仕事ができるかを考える。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 オリエンテーション 第2回 子どもたちはいま? 第3回 // 第4回 子どもにとって、物語とは何か 第5回 // 第6回 子どもの本はいまどこまでその地平をひろげているか 第7回 // 第8回 // 第9回 本をなかだちに子どもと向き合うということ 第10回 // 第11回 児童室の司書に求められること 第12回 // 第13回 図書館の現場から—すぐれた仕事をする人々 第14回 // 第15回 試験	<b>【後期】</b>	
進め方	講義		
テキスト	なし	参考文献	『現在子どもたちが求めているもの』(キッズメイト社) 『子どもと本の世界に生きて』(こぐま社) 『そして、ねずみ女房は星を見た』(テン・
評価方法	出席点:60% 試験:40%		

資料特論		前期 1 単位	2年
図書館資料としてのマイクロ資料、視聴覚資料、地域資料、政府刊行物、電子資料について		加藤 久枝 (かとう ひさえ)	
ねらい	近年、図書館では多種多様なメディアを取り扱うようになってきている。この授業では、マイクロ資料、視聴覚資料、地域資料、政府刊行物、電子資料、ネットワーク情報資源の特性、選択・収集、利用、保存管理などについて学ぶ。		
授業計画	【前期】 第1回 マイクロ資料・視聴覚資料 第2回 地域資料 第3回 政府刊行物（行政資料） 第4回 政府刊行物（立法資料・司法資料） 第5回 電子資料 第6回 ネットワーク情報資源（機関リポジトリ） 第7回 ネットワーク情報資源（ポータルサイトなど）		
進め方	講義を中心に行う。ネットワーク情報資源の授業ではインターネットを使って国内の学術機関リポジトリやポータルサイトを紹介する。		
テキスト	なし。プリントを授業時に配布する。	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	出席:20% 課題:30% レポート:50%		

図書館特論 I		前期 2 単位	2年
図書館の自由と図書館のイメージ			
ねらい	市民の権利と図書館の関わりを見ていくことによって市民と社会に対する責任を果たす図書館員とは何かを考えていただきます。なお、本科目は司書資格取得のために必要な科目であり、司書として必要な最低限の知識・技能が獲得できていない場合には不合格とするので注意してください		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 図書館の自由(1)－表現の自由と図書館の自由 第3回 図書館の自由(2)－収集と提供の自由(1) 第4回 図書館の自由(3)－収集と提供の自由(2) 第5回 図書館の自由(4)－利用者のプライバシー 第6回 図書館の自由(5)－検閲の反対 第7回 図書館員の倫理綱領(1) 第8回 図書館員の倫理綱領(2) 第9回 図書館の自由、図書館員の倫理綱領まとめ 第10回 図書館のイメージ－名探偵コナン 第11回 貸出のプライバシーと物語(1)－耳をすませば 第12回 貸出のプライバシーと物語(2)－LOVE LETTER 第13回 表現と図書館の自由－法月倫太郎の冒険／新冒険 第14回 図書館員の仕事－ビューティフル・ライフ 第15回 図書館と「図書館戦争」シリーズ		
進め方	実際に図書館界で問題になった具体的事例を紹介し、その事例に沿って授業を行なっていきます。なお配布プリントのファイル（ただし1部）は校内ネットワーク上で利用できるようにする予定です。		
テキスト	『図書館の自由に関する宣言1979年改訂』（日本図書館協会）、『「図書館員の倫理綱領」解説 増補版』（日本図書館協会）	参考文献	授業時に紹介する。
評価方法	出席:15% 期末レポート:85%		